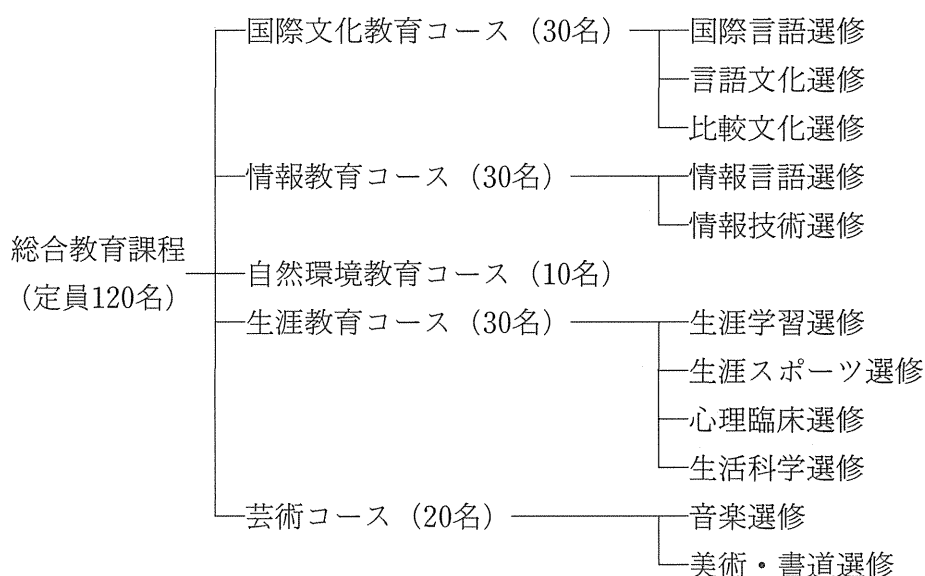


## 紹介 新設された静岡大学教育学部自然環境教育コース

平成元年4月より静岡大学教育学部に総合教育課程が新設された。総合教育課程は、いわゆるゼロ免課程で、教員免許状の取得を義務づけない課程である。就学児童数が毎年減り続けているのは、静岡県においても例外ではなく、当然教員採用数も減少している。この傾向は将来も続くものと予想されている。このような社会情勢の中で、我が静岡大学教育学部も何らかの対応を迫られ、教員免許状をとらなくてよい、言い換えれば、教員以外の職業をめざす課程を新設したのである。総合教育課程は、次の5つのコースに分かれており、各コースはさらに次のような選修に分かれている。なお、新課程の定員だけ、小学校および幼稚園教員養成課程の定員が減らされた。



地学教室に最も関係深いのは、自然環境教育コースで、定員はわずか10名だが、1コース1選修でまとまりもよい。本年度男女5名ずつの学生が入学し、そのうち県内出身者は4名である。

自然環境教育コースの設立趣旨を、受験生へのパンフレットから転載する。

最近の自然科学の発展は目ざましいものであるが、これらの成果が人類の真の幸福につながるかどうか、疑問点も出てきている。乱開発による自然環境の破壊、公害の発生等は現代社会の問題である。これらの問題に対処するには、自然現象をよく理解した上で、自然と人間生活の調和を考えていくことが必要になる。本コースは、このような社会的要請に応じて、人間社会と自然との関係について総合的に考えていく人間を育成することを目的にする。開講科目としては、生物学、地学を中心とする科目の他に関連分野として、化学、物理学、地理学、栽培学等の科目がある。実験、野外実習も多くあり、実際場で考える習慣が身につくようになっている。期待される進路としては、自然環境アセスメント関係の公務員、コンサルタント会社の社員、博物館・科学館の学芸員等がある。

(静岡大学教育学部 木宮一邦)